

私はインターネットを使いこなせるようになる前にイスラムへと改宗したため、自らの足を使って色々調べなければなりませんでした。私にとって、イスラムの果は知的面と神学的面の双方において足させるものであることが重要なことでした。私のの一部は、私と同じような背景を持つ方々にとって、自らの精神的探求における有益な指や出点になることが出来るのでは、と感じています。

私の生い立ち

私は1998年の10月に、31歳でイスラムに改宗しました。私はアイルランド出身で、カトリックを踏襲する家庭のもとに生まれましたが、成人して以来ずっと海外で暮らしています。1990年代の半、ムスリム国で出会った女性と恋に落ちました。ムスリムの女性は他宗教の信者との婚がされていないため、もし彼女と婚したいのであれば、イスラムに改宗しなければならないということを知りました。私はムスリムになる可能性というものを全く受け入れることが出来ませんでした。事、私は宗教としてのイスラムについては殆ど知りませんでした。ムスリム国でいたから、それにしても非常にいい印象を持ち、西洋の持つ一般的なイスラムへの嫌感を身をもって感じていました。いずれにせよ、ヨーロッパにいた1998年の前半は、大学やでつけることの出来たイスラムについてのすべての本をみり、意外にもその内容の90%は受け入れることが出来るということが分かりました。、私は中になっていました。私は宗教としてのイスラムの神学的、理的な教えではなく、一部の不快な名ばかりの「ムスリム」たちの度をもとに、イスラムにする偏を持っていたという自らのちに付いたのです。

イエスは神の子なのか

私が本当のに直面したのは、イエスの役割についてでした。私はカトリックのキリスト教徒として、父なる神、子なるイエス、そしてによって成される三位一体を信じて育ちました。それは一人の神に三人の人格があるものです。イスラムはこれを否定し、神の的唯一性（タウヒド）と共に、イエスは大な言者ではあったものの、神格性を有さない一人の人であったときます。

であり、（プロテスタントとはなる）キリスト教徒の に留まっていた。たとえば福音 から学んだこととしては、キリスト教の 内において、私は 化や使徒 承の教 を信じていました。しかし、キリスト教自体の有 性、特に原罪やそれに伴う「神の子イエス」による血の 牲、「魂の救世主」による 罪といった教 については深刻な疑念を抱いていました。これらの概念は、キリスト教が派生したとされるユダヤ教においては未知のものであり、相容れないものです。しかしながら、神の子としてのイエスの概念は私に深く根ざしており、それ以外の解 を受け入れることは私にとって めて困 なことでした。

この 事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/jp/articles/658>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。